

沼津高専だより

第115号

令和元年7月31日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



入学式



安全運転講習会



1年合宿研修



救命救急講習

目次

☆新年度にあたって（年度方針等）

自信は自らが創りだす	……………	学校長	藤本 晶	……	3
沼津高専の近況	……………	副校長（総務主事・教務主事）	小林隆志	……	3
安心安全な高専を目指して	……………	校長補佐（学生主事）	高野明夫	……	4
寮生会とともに築く学生寮を目指して その2	……	校長補佐（寮務主事）	川上 誠	……	4
挑戦を続け常に新鮮な気持ちで	……………	校長補佐（専攻科長）	稲津晃司	……	5
信頼関係とセーフティネット	……………	機械工学科長	三谷祐一朗	……	6
今年度の電気電子工学科	……………	電気電子工学科長	西村賢治	……	6
学科の近況と学生のキャリアデザイン	……………	電子制御工学科長	牛丸真司	……	7
新しい元号、令和を迎えて	……………	制御情報工学科長	長縄一智	……	7
MCC対応の新カリキュラムへ	……………	物質工学科長	大川政志	……	8
当たり前のことを実践する力	……………	教養科長	佐藤崇徳	……	8

☆人事異動について

平成31年度 人事異動	……………				9
平成31年度 校務分掌・学級担任	……………				10
平成31年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員	……………				11

☆着任挨拶

未知との出会い	……………	専攻科担当教員（プロジェクト担当）	雑賀洋平	……	12
「なぜ人文学を学ぶのか？」	……………	教養科	高瀬祐子	……	12

☆新入生から（入学にあたり）

夢への道のり	……………	機械工学科1年	畠中 杏	……	13
高専で最初に学んだこと	……………	電気電子工学科	藁科美咲	……	13
高専での充実した日々	……………	物質工学科1年	山口千鶴	……	14

☆留学生から

日本語全く分からないで、日本に留学した……					
……………	電気電子工学科3年				
		ビジェコーン・ムヂヤンセーラゲ・ルビニ・ラサンティカ・クマリ		……	14

☆寮生会活動について

寮生活の意義	……………	電気電子工学科4年 寮長	林 溪音	……	15
--------	-------	--------------	------	----	----

☆教育後援会から

技術者育成と教育後援会の関わり	……………	教育後援会会長	井出 悟	……	15
-----------------	-------	---------	------	----	----

☆三つのポリシー

☆お知らせ

令和元年度沼津高専1日体験入学のお知らせ	……………				20
令和元年度（8月～3月）行事予定表	……………				21

新年度にあたって (年度方針等)



自信は自らが創りだす

学校長
藤本 晶

バッグやファッションそれに財布、有名ブランド品を持っていると嬉しくなります。学歴でも有名大学卒に憧れるでしょう。人間の基本的な性かも知れません。しかし程度問題です。有名ブランドでないからと卑屈になるのは考えものでしょう。またブランド品の良さや価値を理解せずに持っているのでは、と思うこともしばしばです。これらを見ると、日本人はブランドに弱いと感じると同時に、ものの本当の価値を評価する力が弱いように思えます。

身近なことに目を向けてみますと、私達は世間的にマイナーな「高専」という学校にいます。卒業生は企業から高く評価されています。しかし社会には有名大学やレベルの高い大学が沢山あります。関係者がコンプレックスを感じても仕方がない面もあります。私が主に活動していた応用物理学会でも、「高専」は極めてマイナーな存在でした。講演の際に、全く引け目を感じなかったと言えば、そうではありません。そんな時には『肩書が発表するのではない。』と自分に言い聞かせたものでした。

しかしコンプレックスを感じるかどうかは、所詮その人自身の問題なのです。置かれている立場や現実を直視することで容易に解決できる、そんなものだと思います。高専だからと変に卑屈になることも、また逆に大学と対等以上だと背伸びすることも無いのです。その意味で、学生に学会発表を義務付けることはあまり意味がないと考えています。学会で発表するのに相応しい成果が出たときに発表すれば良いのです。無理に「学会発表」だと恰好をつけても、仕方がないでしょう。

同じことが学歴でも言えます。「高専」卒ではダメと考える人は、大学に進学しても「学部」卒ではダメだと感じるかも知れません。さらに大学院に進んでも修士でダメだとか、博士まで行っても**大学の博士ではダメだとも思うかも知れません。自分自身に自信が持てない限り、どのような肩書、権威があってもダメなのです。その人自身が自信を持たなければ、何も解決しないでしょう。

高専の学生は大学にコンプレックスを持っていると感じることがあります。大学への一種の憧れもあるでしょう。しかし学生がコンプレックスを持っていることは、教員がコンプレックスを持っていることの現れかも知れないのです。学生は教員の背中を見えています。卒業研究や特別研究で教員と密に接していればなおさらです。人生は肩書や権威だけでは渡れません。沼津高専の卒業生には、肩書や権威に頼ることなく、胸を張って、人生を堂々と歩んで欲しいものです。



沼津高専の近況

副校長
(総務主事・教務主事)
小林 隆志

4月に新入生203名、編入生2名、留学生1名を迎えて、本科生1,042名で新年度が始まりました。今春の本校受験志願者数は296名と、前年より30名以上志願者が増え、最近続いてきた志願者減から転じて大きな増加となりました。学校としては、推薦基準の変更、全教員による中学校訪問、体験中学や体験授業の充実などの対応を行ってきました。教育後援会の役員の皆様が、昨年度、体験授業、高専祭の「親カフェ」において、参加した中学生やその保護者に現役学生の親の視点で語り掛けていただいたことも大きかったと考えています。今年度も多くの機会をとらえて沼津高専の魅力を情報発信してまいります。保護者の皆様にも本校受験志願者確保に向けてご支援いただければと思います。

教育後援会の5支部体制が実施されて、4年目となり

ました。夏と冬に各支部を校長・校長補佐が訪問し、学校の様子をお話しし、保護者の皆様からのご質問にお答えするとともに、学校へのご要望もお聞きしています。特に、低学年の保護者の皆様は、お子様が親元を離れて寮生活をしていることから、学校の情報が少ないとお感じの方が多く、学校から積極的に情報発信してほしいとの要望があります。学校のホームページ、Kメールを利用した密な情報発信を行い、保護者の皆様の不安を可能な限り解消できるよう改善してまいります。

今年度は5月に10連休があったこと、9月末には4年生の海外研修を予定していることなどもあり、年間行事予定表が変更されています。中間試験は低学年の教養科目を中心に複数クラス同時試験の必要な科目に限定して、3日間で実施しています。今後も年間の行事を見直ししながら、新しい取り組みを進めてまいります。

科学技術が急速に進展する中で、将来学生の皆さんが技術者として活躍するためには、自分自身の専門基礎知識と教養科目の知識を着実に身につけることが必要です。さらに、身につけた知識を基にして実践する体験も必要です。本校では、専門知識の実践力を養う教育のために、(独)工業所有権情報・研修館による支援を得て知的財産

教育を進めています。その一環として、今年度、本科、専攻科の全校学生を対象として、校内パテントコンテストを実施します。自分のもつアイデアをアイデアシートにまとめて応募するものです。9月末には優秀作品を選び、さらに外部の弁理士のお力もお借りして、よりよいものに仕上げる計画です。夏休み中にいろいろとアイデ

アを膨らませて、夏休み明けには多くの学生の皆さんが応募されることを期待しています。

これからも時代の変化に対応しながら、技術者教育と学生支援に努めてまいります。引き続き保護者の皆様のご理解とご支援をお願いいたします。



安心安全な高専を 目指して

校長補佐（学生主事）
高野 明夫

日頃の学生の生活指導等に皆様のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。春の交通指導、学生生活支援、就職活動支援の3点について報告いたします。

春の交通指導としては、路上指導、自転車のツーロックと自転車・原付の学校登録指導、原付講習会等を行いました。今年はスローガンとして①余裕ある行動、②交通ルールの遵守、③思いやり通行を挙げています。路上指導は、昨年事故の起きた場所を考慮し、例年の「正門・南門」、「牧堰橋～五又路」の他に、「寮・テニスコート付近」、「門池方面・旧国産電機付近」を追加しました。4月13日(土)の原付講習会には33名の学生が参加し、座学受講後に、急ブレーキの掛け方、2段階右折の方法、ジグザグ走行等を実習しました。今後も、交通事故のない学校を目指していききたいと思います。

次に学生生活支援についてです。昨年の学生生活支援室の相談内容は、精神面35%、学生指導7%、勉学7%、進路7%、発達障害6%等多岐にわたり、利用人数も延

べ273名でした。こうしたことから、今年からカウンセラーを1名増員して3名とし、スクールソーシャルワーカーも新たに1名採用して、放課後毎日、相談が受けられるようにいたしました。さらに、看護師も1名から2名に増員し、支援室教員6名による学生相談も随時各教員室にて実施できるようにいたしました。また、新たな試みとして、学生が学生の日常の困りごとの相談に応じる「ピアサポート」という活動を始めました。すでに4月と5月に多目的教室で実施しています。今後も、学生が悩みを1人で抱え込むことのないように支援して参ります。

最後に就職活動支援関係です。平成30年度の就職状況は、本科全学科、専攻科全コースとも、就職希望者に対する就職率は100%でした。また、求人倍率は、本科平均28.7倍、専攻科平均29.2倍でした。ちなみに一般の大学の就職率は91.9%、求人倍率は1.9倍でした。今年もすでに、本科生及び専攻科生を対象とした進路支援のための様々なイベントを実施しています。2月には就職面接講座と就活メーク講座、3月には東京の合同企業説明会への参加と沼津高専就職祭の実施、4月と5月には約2か月間の就職模擬面接を実施しました。

学生が不安なく学校生活を送れるよう努めて参りますので、今後とも保護者の皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。



寮生会とともに築く 学生寮を目指して その2

校長補佐（寮務主事）
川上 誠

昨年度に引き続き、今年も校長補佐（寮務主事）を務めることになりました川上と申します。どうかよろしくごお願い申し上げます。

平成31年度（令和元年度）の学生寮は、留学生6人を含む564人でスタートしました。寮生会では寮長の林湊音（はやし けいと）君をはじめとする本部役員、各棟や各部署の役員が新学期の始まる前から積極的に活動しています。私は2年目ということもあり、今年度の寮生会の体制作りから関わることができました。寮をよりよくしようとする寮生会役員と議論しながら、今年度の寮運営が始まりました。2年目とは言え、まだまだ未熟な私を

支えてくれる役員には、感謝の気持ちでいっぱいです。彼らの助けを借りながら、今年度の寮運営に当たっていききたいと思います。

さて、1年生の寮生の保護者の皆さまには連休前に、2年生以上の保護者の皆さまには連休明けに寮内見学をしていただきました。お子さまの様子はいかがでしたでしょうか。部屋はきれいにされていたでしょうか。沼津高専の学生寮は、できる限り学生の自主性に任せていますので、生活の細部にまでは教職員はあまり口出しをしていません。しかし、中には生活のリズムが乱れる学生や、だらしのない生活を送る学生がいますので、保護者の皆さまからご指導していただくとともに、我々寮務担当も注意して見守ってまいります。

新学期が始まって約3ヶ月が経過し、様々な行事を行ってきました。今年度は寮祭も無事終了しました。早朝の活動としてこれまでに2回の朝礼、第1回目の防災（避難）訓練を実施しました。大部分の学生は機敏に行動してくれますが、中には朝が弱く点呼の後に2度寝をして

しまう学生もいます。生活の慣れとともに緊張感も薄れ、寮にいても授業に遅刻する学生もいますので、寮内で過ごすことのないよう声掛けや見回りをしようと計画しています。できれば学生たちの自主的な行動に任せたいのですが、寝坊して玄関の施錠がされないと安全上望ましくありませんので、我々の手が入ることもあると思いますが、どうかお許しください。

寮務関係教員については、昨年度と同様に、各棟の顧問や各部署の担当を決め、学生からの相談にのったり助言を行ったりできるようにしています。また寮生会の活動についても、良いアイデアは積極的に採用しようと考

えています。マテカ（自主的に勉強し、上級生が教える集まり）は寮食堂や集会室で実施していますが、棟ごとのマテカを実施してはどうかというアイデアが出ています。また寮生が寮生の相談にのるメンター制度も始めてみようと考えています。彼らの活躍が、実のある形として結果につながってくれることを期待しています。

寮生は寮内で起こる様々な出来事に対応し、その経験を通して多くのことを学び成長していくと思います。保護者の皆さまの変わらぬご支援とご協力のほど、よろしくお願いたします。



挑戦を続け 常に新鮮な気持ちで

校長補佐（専攻科長）
稲津 晃 司

平素より専攻科の教育活動にご理解とご協力を頂き、まことにありがとうございます。

今年度の専攻科は、新機能材料工学コース長の野毛 悟教授、環境エネルギー工学コース長の鈴木静男准教授、医療福祉機器開発工学コース長の山之内 亘准教授、宮下真信教授、前田篤志助教とともに6名で運営します。どうぞよろしくお願いたします。

平成31年度専攻科入試では、定員24名に対して49名が受検し、44名が合格しました。合格者の内24名が入学し、新入生の定員充足率は100%でした。この1年生を含め、今年度の専攻科は、1年生26名、2年生28名の計54名の在籍でスタートしています。令和2年度入試についても4月12日の進学説明会を経て、5月25日に推薦選抜入試、6月15日(土)に学力選抜入試を実施し、他高専からの受検者を含む合計61名が受検し、53名が合格しました。合格者の皆さんには本科課程をしっかりと修めて、来春に入学してくれることを期待しています。

昨年度、本校は（独）大学改革支援・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審しましたが、今年度は専攻科が同機構による「特例適用専攻科における教育の実施状況等の審査」および「認定専攻科における教育の実施状況等の審査」を受審しています。本校専攻科修了生が社会からの期待に応える技術者としての資質・能力を十分に備えることを保証するための審査への挑戦です。

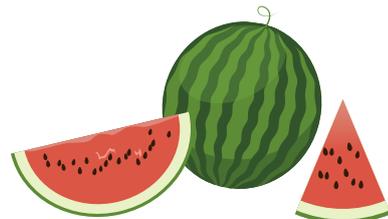
今年度も1年生後期の10月から約4か月間、学生は企業や大学等での学外実習に取り組みます。学生諸君は開発から製造・検査までの産業活動や実験や解析の研究活動の実務を通して、キャリア意識の向上、技術者としての素養の充実、そして学習内容の理解向上に挑戦します。昨年度の実習先は、企業14社、病院等団体3機関、国内

7大学、海外2大学（韓国クモ工科大学・ウソク大学）でした。この実習先には地域創生テクノセンター内に設置された企業インキュベーター、未来創造ラボラトリーの入居企業も含まれ、初めての試みに挑戦した学生は経済的にも時間的にも負担が少ない効果的な学内の「学外実習」を実現しました。

修了後の進路は、平成30年度27名の修了生のうち、就職が16名、大学院進学が11名でした。本年度2年生28名は6月時点で就職希望18名、大学院進学希望10名です。就職希望者は、すでに複数名が内々定を得ており、昨年度同様に順調です。

さらに本校専攻科は、今年度2年生履修科目「知的財産」で一般財団法人知的資産活用センターからの寄附講座の実施に挑戦します。この講座は、ファストピッチとアクティブラーニングを組み合わせ、知的財産についての理解とともに起業精神の涵養を意図する、国内高等教育機関で初めてとなる試みです。

このように専攻科は、修了生が、沼津高専の技術者教育の完成形にふさわしい能力と人間性を身に付けて社会で活躍できるように挑戦を続け、日々新たな発見ができる新鮮な気持ちをもって、教育と研究を実施してまいります。今後とも専攻科へのご支援とご協力をよろしくお願いたします。





信頼関係と セーフティーネット

機械工学科長
三谷 祐一朗

組織を運営していくうえで最も大切なことは「信頼関係」だと思います。信頼関係を構築するために、出不精の性格ではありますが、催し物にはなるべく顔を出し、対面での話を大事にすることを心掛けています。先日、駿河伊豆地域の企業や自治体および教育機関から構成される「駿河伊豆産業交流会」の懇親会に参加しました。多くの部長・工場長クラスの方々から高専に対するご意見などを頂き、「高専の女性は優秀で強い」とか、「学卒は辞めてもいくらでも替えが居るが、高専卒に辞められると辛い」というお話がありました。良い人材を育成して地元企業へ送り込みたい、少しのことではへこたれない学生を育てたい、そんな想いがしました。会社の方々と信頼関係の構築は、学生を指導する教員にとってとて

も大切だと感じました。

一方、学校の中での信頼関係構築も心掛けています。まず学科内では、月1回程度開催する学科会議において、学生に最も近い位置にいる担任の先生方からの、クラスの様子や気になる事柄の報告を、時間を気にせずじっくり話ができるように会議の最初に行います。また、考え方や価値観の違いによる教員間の摩擦を、コミュニケーションの場を積極的に設けて解消に努めています。

そして、私が最も大事にしているのは学生との信頼関係です。今年から新たに、制御情報の4年生の講義を担当しており、他科の学生ですが、レポート課題に細かくコメントを記入して返すことで、学生とのコミュニケーションを取り、信頼関係の構築を図りました。その結果、授業に対する学生達からの意見を募った際には、感動的な言葉に溢れていて、とても励まされ、学生達を大切にしたい気持ちで一杯になりました。

このような信頼関係を作る努力は、最近非常に重要視されている、学生を守るセーフティーネットの構築につながっていると確信します。学生達が安心して学べる場となるよう努力をしていきたいと思っています。



今年度の 電気電子工学科

電気電子工学科長
西村 賢治

昨年度に続き、今年度も教員11名、技術職員1名、そして200名からの未来を担う学生達の奮闘で学科を運営しています。

さて、これまでも少しずつ移行していたのですが、今年度からは一気に4年生と5年生に学修単位という考え方を多くの科目で導入し、従来は1年かけて学んでいた内容を半年で終え、あとは日々の宿題として各自で学び理解する、一言で言えば大学と同じ単位の考え方に変更しました。授業時数は減りますが、その科目を修めるために学ぶ時間は増えます。こうすることで時間割に余裕ができます。ほぼ毎日のように8時間だったのが、6時間や4時間になりました。この空き時間を遊ぶ時間として過ごすのではなく、宿題や将来の自分に向けた投資として有益に過ごせるかどうかが大事です。下級生も、早いうちから自分で考えて取り組む習慣を身に付けておくことが必要になります。とはいえ、何をどうしたらいいのか、と悩んでしまう学生が大半でしょう。電気電子工学科では、主に長期休業中や定期試験の前・中・後に、学びの伝承として、Eスタ（E科スタディプロジェクト）を実施しています。企画・立案・実施まで、上級生が組織した執行部がすべて執り行い、下級生にどうやって学びを伝えていくか考えています。こういったものにぜひ参

加してください。下級生のときは教わる立場で参加していた学生が、いつしか伝える、運営する学生へと成長していく様子は、目を見張るものがあります。これを強力に支えるのが、野毛教員、高矢教員そして鳴教員と山之内教員です。研修から戻ってきた眞鍋教員も新たに加わり、さらに学科全教員でこの活動を支えます。野毛教員、高矢教員、眞鍋教員は担任や副担任も務めています。

昨年度に電池自転車で、茂木の大会に初出場で初優勝した中学生チームを率いた大津教員は、今年度は鈴鹿に参戦します。沼津高専チームは昨年こそ優勝を逃しましたが、今年は巻き返しを狙います。





学科の近況と学生の キャリアデザイン

電子制御工学科長
牛丸真司

本年度、学科長を務めさせて頂くことになりました。どうぞ宜しくお願い致します。

今年度は大庭先生が「フランス国立流体力学・音響研究所」の海外研修から戻られて、9名体制でスタートしています。3～5年の担任は、5年が大庭准教授、4年が小谷准教授、3年が青木准教授です。また、副担任として2年に鄭教授、1年に鈴木准教授を配しています。この他の学科の主な陣容としては、就職担当に遠山教授、学科の中心的な科目である4年の電子機械設計製作の主担当に大沼准教授を配しています。

現在進行中の5年生の就職・進学活動の状況についてですが、今年度は就職希望が約4割、進学希望が約6割と進学希望者が若干多くなっています。このうち就職に

ついては、現時点（6月中旬）で既に8割程度の学生が内々定を得ています。

4年生は学年末までには卒業後の進路選択をしなければなりません、それまでに学修する（した）専門科目、電子機械設計製作での開発経験、夏季休業中のインターンシップでの就労体験や大学のオープンキャンパスへの参加などをとおして、キャリアデザイン（＝職業に関する将来像）を描けるようになっていけば、自ずと卒業後の進路は見えてくると思います。1年生から4年生にかけては、学年進行とともに専門科目の比率が高くなるため、高学年になるほど専門科目への関心の持ち方次第で、勉学に取り組む姿勢は大きく変わってきます。その科目を学ぶ意義と面白さを理解してもらうことが、キャリアデザインを考えることにつながるものと考えています。

高専5年間の各学年で目標とするところは異なりますが、部活なども含めて、十代後半のこの時期にどれだけ多くのことを学び・経験し、頭と体と心を鍛えることが出来るかが、将来の財産になることは間違いありません。われわれ教員はそれを全力でサポートします。今年度も保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



新しい元号、令和を迎えて

制御情報工学科長
長縄一智

この度、学科長を仰せつかりました長縄です。これまで5年間、学科での授業・研究に加え、全学生対象のキャリア教育、就職支援、そして、地域創生を目標としたCOC+活動等を通して企業と学生との橋渡しをして参りました。このような中で、今年度から学科長を拝命し、身の引き締まる思いです。制御情報工学科では、この3月に就職15名、進学21名の卒業生を送り出すことができました。また4月には、1年生41名を迎え新年度がスタートしました。5月には元号が令和に改まり、新しい時代が始まる期待と不安が交錯する中、フレッシュな中にも伝統と実績ある制御情報工学科を代表いたしまして、尽力して参りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

さて、今年度の学科体制ですが、クラス担任は、3年山崎准教授、4年長谷教授、5年藤尾教授が受け持つこととなります。1、2年につきましては、クラス担任は教養科からそれぞれ小村准教授と黒澤准教授が受け持ち、副担任として、本学科からそれぞれ大久保准教授、芹澤教授がその任に就き、バックアップを行います。また、就職担当は長縄が兼任、そして進学担当は5年担任の藤尾が担当いたします。学科教員といたしましては、今年3月に定年を迎えられた吉野教授（現、名誉教授）が退職され、1名減の10名体制となりましたが、充実した授

業、学生生活を過ごして頂くべく、全員一丸となって取り組んで行く所存です。時代は、AIやIoTなどの例をひも解くまでもなく、「制御」と「情報」をキーテクノロジーとして進んでおります。その中で、制御情報工学科を選び、そこで勉学を行っている学生の「時代を読む眼」に狂いはないと思います。しかしながら、高専の5年間は、学生の勉学の妨げとなる様々な誘惑が降り注いでくるのも事実です。こうした誘惑に負けず、5年間充実した学生生活を過ごすためには、本人の自覚や教員の指導に加え保護者の皆様のお力添えが必要です。ご理解ご協力のほど、何卒宜しくお願いいたします。





MCC対応の 新カリキュラムへ

物質工学科長
大川 政 志

本年度も、昨年に引き続いて学科長を務めることになりました。よろしくお願ひ致します。4月に挙行された入学式で新入生40名（男子23名、女子17名）と編入生1名が加わり2年生43名、3年生41名、4年生46名、5年生39名、で本年度の物質工学科が始まりました。昨年度不在であった竹口昌之教授も物質工学科に戻られ、本年度は教員が12名体制となります。

教育内容につきまして、タイトルにも書きましたが、物質工学科では本年度入学生から高専機構により定められたモデルコアカリキュラム（MCC）に対応したカリキュラムを実施することになりました。2年生から4年生の現行のカリキュラムにおいて4、5年生で開講される選択科目を必ず履修する（授業に2/3以上出席する）

ことでMCCに対応させていますが、新カリキュラムでは必修科目でMCCの内容を網羅しています。選択科目にはより応用的な内容を学ぶ科目を用意しました。さらに、1年生の1年間で、物質工学科の基礎となる化学基礎と化学Bを履修します。1年生にとっては他学科の2倍のスピードで化学を学ぶこととなりますが、2年時には演習を通して1年時に学んだことを復習し化学の基礎を定着させる授業も用意しています。繰り返し化学に触れることが基礎知識の定着には必要と考えます。高学年では、4年生の化学工学実験と生物工学実験が半期ごとになりました。5年生は学修単位科目が増え、授業時間は減っていますが自学自習時間が増えています。

学生の進路状況ですが、就職希望者と進学希望者の割合は半々であります。昨年同様多くの企業からの求人があり、就職希望の多くの学生が3月から始まった就職活動を終わりつつあります。進学希望者の一部は、進路を決定しつつありますが、まだ多くの学生が将来に向けて編入試験に挑んでいます。

本年度も保護者の皆様の物質工学科へのご理解とご協力をお願いいたします。



当たり前のことを 実践する力

教養科長
佐藤 崇 徳

本年4月より教養科長を務めることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

教養科では今春、小林美学教授が人事交流制度により東京高専へ1年間の予定で移った一方、高瀬祐子助教（英語、専門は19世紀アメリカ文学）を新任教員として迎え、専任教員25名の体制となっています。

教養科は五つの学科すべての学生に対して一般科目（教養教育、工学基礎教育）の授業を提供することが主たる役割ですが、それとともに1・2年の学級担任を務めるなど、おもに低学年の学生指導を担うことも教養科の教員の重要な任務となっています。

沼津高専では今年度も二百余名の新入生を迎えました。緊張してやや硬い表情で4月の入学式に臨んでいた1年生たちも、今では沼津高専に馴染んで、賑やかに学校での日々を過ごしています。私たち教員は少しでも彼らの成長の助けとなるよう学生指導を行っています。

1年・2年とも、各クラスは教養科の教員が学級担任を、当該学科の教員が副担任を務め、学年全体で10名の担任団で学生指導に当たっています。両学年の担任団では「このような学生になってほしい」という学年での共通の目標を掲げて、指導に努めています。具体的には次の通りです。

第1学年

- 規則を守り、自律した生活を送る。
- 自分で調べ、自分で考える学習スタイルを身につける。
- 他者と自分との違いを理解し、思いやりを持つ。
- 公共物を大切にす。

第2学年

- 学習する習慣を身につける。
- 他人を思いやる心を育てる。
- 物を大切にす。

表現は多少異なっていますが、いずれも同じようなことを掲げているのがお分かりいただけるかと思ひます。そして、そこに書かれている内容は、ごく基本的なこと、常識的なことだとも感じられるでしょう。しかし、これを実践することは言うほどたやすいわけでもありません。

例えば、他者との関わりです。小学校・中学校は地元の学校で比較的同質の集団のなかで過ごしてきたのに対して、沼津高専は静岡県外を含む広い地域から学生が集まっています。同じ中学校出身の同級生がいるという学生はそれほどいません。高専では自分と違った生活習慣の人、自分とは考えの異なる人との遭遇は必至です。しかも、低学年では多くの学生が寮での集団生活を行っています。昼も夜も自分とは異なる他者と顔をつきあわせる生活は、学生たちにストレスを与えることでしょう。些細な人間関係のトラブルが、ときとして「いじめ」につながっていく恐れもあります。

他者は自分とは違った存在である（自分と同じ考えとは限らない）という事実を受け入れ、相手を一人の人間として尊重する。これは社会において人間関係を築いていく上での基本であり、また、グローバル化している現

代社会において盛んに言われている異文化理解の根底をなすものです。

一つのクラスは同じ学科とはいっても「赤の他人」が約40名いる集団ですから、なかには自分と反りの合わない人もいて不思議ではありません。小学校のように「みんな仲良く、友達に」とはいかないかもしれません。無理して仲良しになる必要はない。しかし、そんな相手も一人の人間として尊重する。例えば、顔を合わせたときには挨拶をする。相手が嫌がることはしない。その程度のことにはきちんとするべきではないか。私が学級担任を

するとき、このような趣旨のことを学生に話しています。

一つの例として他者との関わりについて述べましたが、いずれの目標も同様です。学生たちも頭では十分理解していることばかりで、あとは日常の学校生活のなかでいかに実践できるかが問われます。しかし、それこそが容易ではなく、日々の努力が求められるところかもしれません。

保護者の皆様のご理解、ご支援を賜りながら、教養科教員一同、沼津高専での教育に邁進してまいりたいと考えています。

平成31年度 人事異動について

発令日付	氏名	異動の内容	旧職名等
平成31年3月31日	西垣 誠一	定年退職（嘱託教授に再雇用）	教授（教養科）
	吉野 龍太郎	定年退職	教授（制御情報工学科）
	金子 裕哉	雇用期間満了退職	助教（制御情報工学科）
	勝山 智男	再雇用期間満了退職	嘱託教授
	大久保 清美	再雇用期間満了退職	嘱託教授
平成31年4月1日	小林 美学	東京工業高等専門学校に配置換	教授（教養科）
	雑賀 洋平	教授に配置換	群馬工業高等専門学校教授 （電子情報工学科）
	竹口 昌之	教授（物質工学科）に配置換	和歌山工業高等専門学校教授 （生物応用化学科）
	高瀬 祐子	助教（教養科）に採用	



平成31年度 校務分掌

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists various administrative roles and staff members.

Table with columns: 区分, 氏名, 職名, 担当事務, M, E, D, S, C, L. Lists administrative roles and staff members, including a summary row at the bottom.

Table with columns: 学科・学級, 担任氏名, 職名, 副担任氏名, 職名, M, E, D, S, C, L. Lists faculty members by department and course.

※◎は学年代表

Table with columns: 教科主任, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Lists subject teachers and their assignments.

Table with columns: 委員会名, 役職名, 氏名, 職名, 備考, M, E, D, S, C, L. Lists committee members and their roles.

令和元年6月10日現在

平成31年度 学生会・クラブ・同好会顧問教員

クラブ・同好会名	顧 問 教 員 名 (☆は連絡責任者)					
陸上競技部	☆渡邊 志保美	鈴木 静男	金 顯凡			
ソフトテニス部	☆平田 陽一郎	佐藤 崇徳				
バレーボール部	☆大庭 勝久	小田 昇平	高瀬 祐子			
バスケットボール部	☆遠山 和之	青山 陽子	鈴木 久博			
野 球 部	☆設楽 恭平	前田 篤志	端川 朝典	雑賀 洋平		新任(D科)
卓 球 部	☆芳賀 多美子	黒澤 恵光	稲津 晃司			
柔 道 部	☆松澤 寛	(端川 朝典)				
剣 道 部	☆新井 貴司	澤井 洋				
サッカー部	☆山之内 亘	長縄 一智	駒 佳明	山根 説子		
ラグビー部	☆井上 聡	鄭 萬溶				
体 操 部	☆佐藤 誠	後藤 孝信				
水 泳 部	☆新富 雅仁	大澤 友克	遠藤 良樹			
合気道部	☆長谷 賢治	眞鍋 保彦				
テニス部	☆小村 元憲	西田 友久	竹口 昌之			
スキー部	☆嶋 直樹	小谷 進				
ハンドボール部	☆野毛 悟	高矢 昌紀	三留 規誉			
弓 道 部	☆小村 宏史	小林 美恵子				
空手道部	☆芹澤 弘秀	大久保 進也				
バドミントン部	☆牛丸 真司	藤尾 三紀夫	古川 一実			
トライアスロン部	☆三谷 祐一朗	伊藤 拓哉				
吹奏楽部	☆藁科 知之	山中 仁	永禮 哲生	(松澤 寛)		
囲碁将棋部	☆山崎 悟史	横山 直幸				
ロボコン部	☆青木 悠祐	望月 孔二				
天文部	☆大川 政志	住吉 光介				
同好会(理工系)	☆村松久巳(機)	☆鈴木康人(プ)	☆鈴木正樹(数)	☆大津孝佳(知)		
同好会(芸術系)	☆芳野恭士(合)	☆宮下真信(軽)	☆西村賢治(大)	☆成田智子(茶)	☆村上真理(E)	
	☆大沼 巧(ア)					

同好会(理工系):機械工学・プロコン・数理・知財

同好会(芸術系):合唱・軽音楽・大道芸・茶道・ESS・アカペラ

平成31年4月1日現在

着 任 挨 拶



未知との出会い

専攻科担当教員
(プロジェクト担当)
雑賀 洋平

群馬県前橋市にある群馬高専から参りました雑賀洋平と申します。高専機構をはじめ、関係される皆様のお力添えにより、沼津高専で1年間、教育・研究に携わる機会を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

私の浅はかな見方とおして、高専というシステムを眺めてみますと、高専という仕組みそのものは、すべての高専に共通する部分が多いと思っておりますが、それぞれの高専には異なる特色があり、その特色を活かした教育を行っているように感じております。今回の人事交流では沼津高専に特有な、私にとっては未知のことを体験し、新たな高専の魅力を見出すことが最大の課題と受けとめております。吸収できることは吸収し、身に付

けることは身に付け、成長していきたいと念じております。

この原稿を書いているのはまだ6月の半ばですので、沼津高専のことをよくは知りませんが、担当する講義の学生の実直な態度や、クラブ活動中の学生の気持ちの良い対応に触れるとき、沼津高専は、とにかく、明朗で、活動的な学生が集まっている学校であると、心からの感動を持って受けとめております。これから、どのようなことに会おうかわかりませんが、教育・研究を中心に、またこれらに関連する様々な仕事を通して、沼津高専に貢献できるよう力を尽くす所存です。この中で、私にとって目新しいものを見出す目を養いながら、また、目新しいものが眼前に現れたときは、しっかりと受けとめられる準備をして参りたいと願っております。

末尾になりますが、決して若いとは言えない私の、沼津高専での教育・研究に携わりたいという希望を叶えてくださいました、全ての皆様に、心より感謝の気持ちをあらわしたいと思います。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



「なぜ人文学を学ぶのか？」

教養科
高瀬 祐子

2015年の春、文部科学省は国立大学の人文社会学系の学部を廃止しようとしているという報道が相次ぎ、大騒動が巻き起こった。事態は次第に収束したが、この騒動の余瀝は今もくすぶり続けている。文学を専門とする私にとっても衝撃は大きく、「なぜ人文学を学ぶのか？」という問いに対する答えを常に自問自答してきた。

さて、あれから4年、人文学を学ぶ理由について私は現在次のように考えている。(私の専門はアメリカ文学なので、人文学の中でも文学について述べたいと思う。)教室というコミュニティの中で、複数人で同じ文学作品を読み、その内容について意見を交わすと、人それぞれ感じることは異なる。共感する登場人物も違えば、結末についての解釈が異なることさえある。なぜだろうか？それは言葉が万能ではないからである。自分が考えていることすべてを、言葉で正確に相手に伝えることは難しい。頭の中にあるものを、声や文字記号として自分の外に発信した瞬間から、ねじれて誤解を招いたり、思いもよらない反応をもたらしたりするのである。(興味深いのは、先に挙げた人文学不要論という騒動そのものが、言葉が万能ではないことを物語っている点である。)

言葉を使う楽しさも恐ろしさも、実感として体験できるのが、文学作品を読むという経験ではなかろうか。そして、万能ではない言葉を使って生活しなければいけない私たちに求められるのが想像力である。言葉が自らを離れた時のことを想像する力がなければ、言葉は諸刃の剣となる。今年話題になったドラマ「3年A組」はSNSにおける言葉の暴力が1人の女子生徒を自殺に追いやったことを、菅田将暉演じる柊一颯が徐々に暴いていくというストーリーだったが、柊のセリフ“Let's think.”はまさに言葉を使う際における想像力の重要性を表していた。

英語という母語以外の言語を使う際には、さらに想像力が必要となる。英語を学ぶことは、もう1つの思考回路を持つことにつながる。豊かな言語感覚や想像力を養うことができるよう、日々の授業に取り組みたい。



新入生から（入学にあたり）

夢への道のり

機械工学科1年 畠中 杏

私の将来の夢は、機械整備士になることです。小学生の時、少年少女発明クラブの指導員の方々に憧れ、機械のメンテナンスに興味を持ち始めました。メンテナンスは機械に関係する工程の中でも特に大切な部分だと思っていますが、憧れと興味だけではそのような大切な工程を行うことはできません。私は、機械工学科で幅広い知識と確かな技術を修得し、5年後には、技術者として社会に出ます。高専で得た知識と技術を土台とし、社会で経験を積み重ね、機械整備士として活躍する、という未来に向かう道のりとして、5年間の高専生活をスタートさせました。

高専は高校と全く違いますので、普通の高校生では絶対に体験できないことが数多くあります。早い時期から工学の専門分野が学べることはもちろんのことですが、充実した設備による実習、座学では90分の授業など、技術者になるための勉強ができる環境として、本当に特別で恵まれていると感じています。他に、高専の大きな特徴であるのが寮生活です。勉強だけでなく、寮生活を通じても新しいことを見つけ、成長していきたいです。寮には、今まで育ってきた家庭とは大きく異なり、集団生活におけるルールがあります。社会性、協調性を身に付

けるとともに、様々な状況にも対応できるようになりたいです。そして、感謝と気配りも自然とできるようになりたいです。

高専に入学する前の私は、部活の疲れや色々な悩みなどを理由に努力を怠ってきたことがありました。その度に後悔していたので、高専では、そのようなことを少しでも減らしていきたいです。機械整備士になりたいくて、そのための勉強がしたくて、苦勞して入学した学校です。これからの5年間たくさん大変なことがあると思いますが、挫けず、諦めず、後悔のない高専生活だったと胸を張って社会に出られるよう、この道を歩んでいきます。



御殿場研修の様子

高専で最初に学んだこと

電気電子工学科1年 藁科 美咲

私はこの2日間の御殿場研修を通して考えたことが、2つあります。

1つ目は、どこに行ってもあいさつは大切だということです。中学校でもあいさつは大切で、大きな声であいさつをしましょうと言われてきました。寮に入っても、あいさつは大事で必ずするものでした。そして青少年交流の家に来て、朝や夜に集まった時に、あいさつをしました。このように、どこに行ってもあいさつをすることは大切で、人とコミュニケーションをとるための、一番簡単で大切なことだと考えました。

2つ目は、どんな人でも、話してみないとその人の中身まではわからないということです。高専に入ると決めた時点で、女子学生が少ないということは理解していたし、覚悟していました。でも、いざ入学してみると周りは知らない男子ばかりで、同じクラスに女子は私を含め

て4人しかいませんでした。思っていたよりも、かなり委縮してしまい、話しかけることも、顔と名前を覚えることもなかなかできませんでした。今回、御殿場研修で1日目にオリエンテーリングがあり、入学以来一度も話したことの無い人と同じ班になりました。今まで、怖くて話せなかった男子も実際に話してみると面白くて、班でまとまり、仲良く話しながらオリエンテーリングをすることができました。

夜のクラス別研修の自己紹介も、夜だからということもあり、皆すごく楽しそうでした。テンションも高く、自分が最初に思った、怖そうとか話しくさそうということは全然なくて、皆面白くて良い人たちだなと思いました。だから、私はこの御殿場研修を通して、人は話してみないとわからないものだと思わされて感じました。

御殿場研修を通して、このクラスの人たちの人の好きや大切さに気付くことができました。これから5年間つきあっていく仲間を大切に、皆で協力して勉強や活動をしていきたいと思いました。5年間楽しい高専生活を送りたいと思います。

高専での充実した日々

物質工学科1年 山口千鶴

私が沼津高専に惹かれたのは、高専祭に訪れた時です。すれ違う高専生たちはみんな楽しそうで、とても日々が充実していそうだと感じました。そして、私も日々を充実させ、豊かな人間性を育みたいという思いが一層強くなり、沼津高専に入学することを決意しました。

実際入学してみると、中学校とは大きく違う点が主に2つありました。

1つ目は、個性豊かな人が沢山いるということです。私のいた中学では、個性を出すことが憚られるような雰囲気がありました。しかし高専生の多くは自分の個性を前面に出していて、とても衝撃を受けたのと同時に、様々な人との出会いに心が躍りました。そして現在、様々な人と関わるうちに精神力とコミュニケーション能力が向上しています。これからも更に多くの人と関わっていきたいです。

2つ目は、授業の進行速度です。1つの授業は90分もあり、進行は中学校よりはるかに速いです。だから、学力を定着させるために予習と復習を習慣づけることが大切になります。

勉強が難しく大変なこともありますが、その分専門科目の授業など、楽しい授業が沢山あります。物質工学科の専門の授業「物質工学入門」では、物質工学科の先生方の研究内容など、普段聞けないようなことを聞くことができます。研究内容の説明をする先生方の表情はとてもキラキラと輝いて見えるほど素敵で、あこがれや将来への期待が強くなると同時に自分と向き合う貴重な機会だと思います。

入学して1ヵ月程経過した現在までで、高専に入学したことを後悔したことは一度もありませんし、これからの未来も楽しみです。高専での日々や寮での暮らしではもちろん大変なこともありますが、それ以上に楽しいことばかりで、毎日がとても充実していると思います。これからも更に勉学に励み、人間関係を大事にして、高専生活を充実させていきたいです。

留学生から

日本語全く分からないで、 日本に留学した……

電気電子工学科3年

ビジェコーン・ムチャンセーラガ・ルビニ・ラサンティカ・クマリ

皆さん、初めまして。スリランカから来たルビニと申します。私は2018年4月に初めて来日しました。私は来日するまで飛行機に乗ったことがありませんでした。そこで、飛行機に初めて乗ったことも含めて、これまで経験した面白いことや大事なことを皆さんに伝えたいと思います。私は日本に来るまで日本語を勉強したことがありませんでした。そこで、新宿にある日本語学校で1年間日本語を頑張って勉強しました。今、この原稿は私の日本語で書いています。日本に来たばかりのとき、1人で成田空港に着きましたが、どうしたらよいかわかりませんでした。そのとき、周りを探したとき日本語学校の代表者が「ルビニ」とかいた紙を持っているのを見て安心しました。それから、この人と一緒に成田空港から新宿までバスで行きました。新宿の日本語学校では、私の出身国であるスリランカからの留学生は私だけでしたが、アジアの人々だけではなく、ペルー、ブラジルなど南アメリカの国の人々、セネガル、ウガンダなどアフリカの国の人々もいて、国際的な友達がたくさんできました。私は日本語学校で学んだのは日本語だけではなく、様々な国の言葉、文化、マナーなども学びました。そのとき、

私たちは誕生日パーティー、クリスマスパーティーなどいろいろなパーティーを開いたり、ある時はみんなで一緒にお互いの国の料理を作って食べたりしていました。みんなはパーティーを行うだけではなく、大事な日本語の勉強も頑張っていました。そのおかげで日本語を全く知らないまま日本に来た私のような留学生たちが、日本で生活できるだけの日本語を話せる、理解できる、書ける、読めるようになりました。これは私にとって本当に素晴らしいことだと思います。



寮生活会活動について

寮生活の意義

電気電子工学科4年 寮長 林 溪 音

沼津高専学生寮寮長の林溪音です。今年度の寮は「楽しい寮」を目標に、「社会的な側面」を考えながら活動しています。私達役員の間で『スポーツは、ルールがあるから楽しい』という言い回しがよく使われます。楽しい寮とはつまり、そういうことで、寮生全員が楽しく暮らすためには、最低限のルールが必要です。私達の日々の活動は、下級生の指導と、この最低限を考えることです。ルールの線引きを学生で判断し、学生で風紀を保ち、なおかつ、楽しい寮を目指しています。沼津高専は、500人を超える全国的に見ても規模の大きい寮です。そんな規模の大きい寮を学生の力だけで運営することは不可能ではないかと思うかもしれませんが、学生だからこそ、乗

り超える力、耐えられる力、何より楽しむ力が何倍にもなると感じています。そこに私は寮生活をする意義があると考えています。私は寮生活の3年間を振り返り、実に多くの経験を得られたと思っています。上級生や、下級生、考え方がまるで違う仲間達と共に暮らしたこの3年間は、内面的に大きく成長させてくれました。例えば、防災訓練で今までは指示に従い動いていただけであったが、実際に指示を出す側になると預かっている命に責任を感じました。また、日々の生活をする上で洗濯や部屋の掃除、スケジュール管理などを経験し、両親への感謝に気づくことができました。このような経験は普通の学校ではできません。私達役員はこのような経験をもっと色濃いものにしていこうと努力していきます。また役員の人に関しても役を通して、色濃い経験ができる様に全力を尽くします。保護者の皆様におかれましては、温かい目で見守っていただけると幸いです。ご支援のほどよろしく申し上げます。

教育後援会から

技術者育成と教育後援会の関わり

教育後援会会長 井 出 悟

沼津高専は、「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ」を教育理念とし、全人教育を軸とした、指導力ある実践的技術者の育成を目指しています。つまり寮生活や学生生活全般を通じ、知識・技能教育に偏ることなく人間性も伸ばすことが、次世代の技術開発を担う、実践的技術者には必要不可欠だと考えます。

保護者アンケートの結果には、沼津高専の志望動機の1番は本人の強い希望(65%)、2番は教育内容(60%)と、沼津高専を強い意思で選択したお子様、および保護者が多い事が、沼津高専の強みだと考えます。これら強みを支えることが教育後援会の役割です。教育後援会は、保護者の我々がこれまでの義務教育で関わってきた「PTA」とは、活動に求められるものが異なっています。学生が存分に高専での活動が出来るよう支援していくことが、教育後援会の役割です。

是非とも保護者の皆さま方には、高専の目指す、全人教育を軸とした実践的技術者を育成するための学生支援活動に対し、ご理解・ご協力を賜りたいと存じます。沼津高専の特徴的な教育に、特に中学校を卒業したばかりで、親元を離れ寮生活と学生生活という、これまでと全く異なる環境下にお子様を送り出した、会員の方々の不

安はさぞかしかと存じます。その様な時には、各支部の経験豊富な理事の皆さま方が、優しく不安を解消して頂ければと存じます。

中学卒業まで過ごしてきた自宅での生活に比べ、勝手良く過ごせない事は当たり前であり、寮生活や学生生活全般を通じ、知識・技能教育に偏ることなく、人間性を伸ばしていく過程が沼津高専の特色だと考えます。

学生生活には学生会という組織があり、寮生活には寮生会という組織があります。また学校も様々な相談体制を強化していますが、次世代の技術開発を担う実践的技術者には、自ら「報告・連絡・相談」できることが大変重要だと考えます。

是非とも保護者の皆さま方には、「少し不便で、少し窮屈な学生生活、寮生活は、優秀な技術者として成長する為の大切なプロセスである」ことを念頭に、学校や寮での困り事などは、「まずは学生会、寮生会の先輩や役員に積極的に相談してごらん。」と、お子様にご指南頂ければと存じます。

元号が平成から令和に変わり、沼津高専が新しい時代に向け更なる飛躍ができる様、教育後援会としても最大限の学生支援をしていく必要があると考えます。会員の皆さま方の絶大なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。



三つのポリシー

ディプロマ・ポリシーは、卒業認定の方針である。

カリキュラム・ポリシーは、教育課程編成・実施の方針である。

アドミッション・ポリシーは、入学者の受入れの方針である。

本科

【ディプロマ・ポリシー】

全課程を修了して167単位以上（一般科目75単位以上、専門科目82単位以上）を修得し、以下の能力を身につけた学生の卒業を認定し、準学士（工学）を授与する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門的知識を理解できる能力及び工学的課題を解決するため、必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力及び自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力及び自己の研究に関連する文献を調査・選択し、講読できる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

- A 技術と自然や社会との関わりや技術が関わる社会問題に関する具体的事例について、技術者の社会的責任を工学倫理の原則に基づき説明できる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（社会）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- B 環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に関する課題に数学、自然科学及び情報技術の知識を適用できる能力を身につけるため、1～3年次に数学および自然科学（物理・化学）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次にLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- C 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学のうち、いずれかの専門知識を理解できる能力を身につけるため、5年間で専門科目82単位以上を履修する。また、工学的課題を解決するために必要な情報やデータをハードウェア、ソフトウェアにより収集し、整理できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。
- D 自己の学習・研究活動の経過を、専門用語を正しく用いて、報告できる能力を身につけるため、4・5年次に人文・社会科学（国語）に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につけ、5年次に卒業研究を履修する。また、自己の研究等に関する英語の記述や論文を7割程度理解でき、自己の研究成果等の概要を英語でわかりやすくまとめることができる能力を身につけるため、1～3年次に人文・社会科学（英語）に関する科目でLevel 2（理解レベル）までを、4・5年次に工業英語に関する科目でLevel 3（適用レベル）までを身につける。
- E 工学技術に関する具体的課題にチームで取り組む際、チームでの自分の役割を把握して行動し、活動の進捗状況をメンバーに報告できる能力を身につけるため、1～5年次に卒業研究を除く実験・実習・演習に関する科目16単位以上を履修する。また、自己の研究に関連する文献を講読できる能力を身につけるため、5年次に卒業研究を履修する。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、および学力を有する者を、推薦選抜においては、調査書、推薦書、個人面接により、学力選抜においては、学力検査、調査書により確認し、受け入れる。

1. 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者。(知識・技能)
2. 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者。(主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)
3. 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者。(思考力・判断力・表現力等の能力)
4. 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者。(思考力・判断力・表現力等の能力)

専攻科

【ディプロマ・ポリシー】

以下の能力を身につけ、専攻科に2年以上在学し、所定の単位修得条件の下で合計62単位以上を修得した者の修了を認定する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力。
 - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力。
 - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力。
 - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力。
 - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力。

【カリキュラム・ポリシー】

ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のカリキュラムを編成する。

1. 教育課程を一般科目、コース専門科目、専門共通科目、専門展開科目によって編成する。
2. 一般科目を必修科目（工学倫理、語学系）と選択科目（人文社会科学系）に分類し、必修8単位のほか、選択2単位以上を修得する。
3. コース専門科目は選択科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）のみとし、所属コースのコース専門科目を10単位以上修得する。
4. 専門共通科目を必修科目（知的財産）と選択科目（数学、自然科学系）に分類し、必修2単位のほか、選択6単位以上を修得する。

5. 専門展開科目を必修科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、専攻科実験、学外実習、実践工学演習）と選択科目に分類し、必修24単位のほか、選択10単位以上を修得する。
6. 設計・システム系、情報論理系、材料・バイオ系、力学系、および社会技術系の5科目群系に科目を分類した場合、合計6科目以上、各群系から1科目以上を修得する。
7. ディプロマ・ポリシーに示される各能力に対応する科目を1科目以上修得する。

上記7に関し、各能力と授業科目とは以下のように対応する。

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
 - (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（人文社会科学系）、コース専門科目（環境エネルギー工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる能力を身につけるため、一般科目（工学倫理）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門共通科目（知的財産）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える能力
 - (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる能力を身につけるため、専門共通科目（数学、自然科学系）、コース専門科目（新機能材料工学系）、専門展開科目（選択）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
 - (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる能力を身につけるため、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ、選択科目）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる能力を身につけるため、専門展開科目（選択）、コース専門科目（環境エネルギー工学系、新機能材料工学系、医療福祉機器開発工学系）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
 - (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる能力を身につけるため、一般科目（語学系）、専門展開科目（専攻科研究Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
 - (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる能力を身につけるため、専門展開科目（学外実習、実践工学演習、専攻科実験）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。
 - (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる能力を身につけるため、専門展開科目（専攻科研究Ⅰ～Ⅲ）でLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【コース別カリキュラム・ポリシー】

コース専門科目は、各コースにおいて下記の方針で編成され、実施される。

- (1) 環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、A-1、A-2、C-1、C-3に対応した能力を

Level 4（分析レベル）までを身につける。

(2) 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、金属、セラミックス・炭素材料、高分子、生物材料の構造や物性、材料設計作成法について包括的に学修し、B-1、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

(3) 医療福祉機器開発工学コース

機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、A-2、C-1、C-3に対応した能力をLevel 4（分析レベル）までを身につける。

【アドミッション・ポリシー】

以下の意欲、学力及び経験を有する者を受け入れる。

1. 広い視野と深い専門性を身につけて、社会の発展、公衆の福祉に寄与する意欲を有する。
2. 工学教育を受けるために必要な数学、自然科学及び英語の学力を有する。
3. 基礎的な工学について、一定の指導と訓練を受け、実践した経験を有する。

これらをこれまでの学習成果、自己申告書、推薦書、試験、面接などによって確認する。



お知らせ

令和元年度 沼津高専1日体験入学のお知らせ

本年度も、中学生、保護者及び中学校の先生方に沼津高専をより深く知っていただくため、下記のとおり1日体験入学を実施します。

本校の1日体験入学は、中学生その他の参加者に、沼津高専の興味のある学科や施設などを自分の目で自由に見ていただき、進路決定において目的意識を持ち、本校への進学の意味を固めていただくことを目的としてきました。毎年実施しているアンケート結果によると、参加生徒、保護者のほとんどが、進学したくなった、楽しかったと満足していただくことができ、当初の目的を達成することができました。

本年度1日体験入学の内容は、各学科紹介、学生寮食

事体験、学生会企画及びクラブ紹介、学内施設紹介などを予定しています。また、中学生及び保護者の方に好評を得ております進学説明会は、計5回実施します。この1日体験入学によって、毎年多数の中学生が本校を知り、入学を志望、決意するものと思われます。本校在籍の学生及び保護者の皆さん、ぜひ出身中学校の恩師・後輩又は知人の方々を通じ本校体験入学への参加をお勧め下さるようお願いします。

なお、参加申込書は、静岡・山梨県の全中学校及び神奈川県・愛知県の一部の中学校に送付され、申し込み期限は7月17日(水)となっていますが、お申し込みがなくても参加いただけます。

1日体験入学

1. 日 時 令和元年8月3日(土) 9:30~15:00
2. 場 所 沼津工業高等専門学校全域
3. 実施内容
 - (1) 進学説明会
 - (2) 各学科・専攻科紹介
 - (3) 学内施設紹介

- (4) 学生会企画及びクラブ紹介
- (5) 学生寮食事体験
- (6) その他
4. 1日体験入学ホームページアドレス
http://www.numazu-ct.ac.jp/admission/opencampus/trial_enrollment



令和元年度(8月～3月)行事予定表

令和元年

8月 1日(休) 夏季休業(7月24日から8月30日まで)
 3日(土) 1日体験入学
 5日(月) 1～4年保護者懇談会(7日まで)

9月 2日(月) 授業再開
 11日(水) 専攻科前期試験(17日まで)
 16日(月) 本科前期末試験(20日まで)
 24日(水) 臨時休業
 4年海外研修(27日まで)
 26日(金) 2年特別研修
 27日(土) 振替休日(9月16日分)
 30日(月) 答案返却日

10月 1日(水) 後期授業開始
 6日(日) 中学生のための体験授業
 13日(日) 全国高専プログラミングコンテスト
 16日(水) 体育祭・学生総会
 20日(日) 東海北陸地区ロボコン大会
 26日(土) 1・2年TOEIC Bridge IP
 3・4年TOEIC L&R IP
 27日(日) 東海地区高専体育大会(沼津会場)
 30日(水) 文化講演会

11月 1日(土) 高専祭準備
 2日(日) 高専祭(3日まで)
 4日(月) 高専祭片付け
 5日(火) 授業参観・学科説明会(19日まで)
 16日(土) 編入学試験
 24日(日) 高専ロボコン全国大会
 26日(火) 後期中間試験(28日まで)

12月 19日(火) 短縮授業
 20日(水) 補講・補習日
 23日(月) 冬季休業(1月3日まで)

令和2年

1月 6日(月) 授業再開
 15日(水) 3年インターンシップ説明会
 19日(日) 推薦入試
 25日(土) 専攻科2年生研究発表会

2月 4日(火) 5年卒業研究発表会(1～3年授業割愛)
 5日(水) 専攻科後期試験(11日まで)
 11日(火) 授業日
 12日(水) 学年末試験(18日まで)
 専攻科臨時休業(3月19日まで)
 14日(金) 専攻科1年生学外実習最終報告会
 16日(日) 学力入試
 19日(水) 臨時休業・試験予備日
 20日(木) 振替休日(2月11日分)
 21日(金) 終業式・答案返却日
 25日(火) 本科学年未休業(3月31日まで)

3月 20日(金) 卒業式・修了式
 23日(月) 専攻科学年未休業(31日まで)



「沼津高専だより」に関するお問い合わせ

出版委員会(事務担当:総務係)

Tel: 055-926-5712

E-Mail: soumu@numazu-ct.ac.jp

